

※ 聖公会 CS 新聞 「イザみのひるば」は、ぜひ聖霊のひとと一緒に読んで下さい。

いずみのひるば

2021年8月号
日本基督教団堺教会
NO.511 教会学校

『嵐を静めたイエスさま』

マルコによる福音書 4・26～34



この日も笑顔のイエスさまのお話を聞こうと、ガリラヤ湖の岸辺に押し寄せていました。

夕芳になって、イエスさまは「向こう岸に渡ろう」と弟子たちに言われました。そこで、弟子たちはイエスさまと一緒に船に乗り、漕ぎ出しました。

船が湖を連れて行くうちに、突然、山から激しい嵐が吹き下ろして来ました。突如、波が突如に船に押し寄せ、船は氷渡しになりました。しかし、イエスさまは船の後ろのほうで枕をして眠っておられました。

弟子たちは船にはいつてきた氷死を必死で波みだそうとしましたが、船が突播れるので、自分たちが波にさらわれないようにするのが精一杯です。このままでは船は転覆して、みんな死してしまいます。それなのに、イエスさまは何もないかのように眠っておられます。弟子たちはイエスさまを起こして、怒ったように言いました。「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」

イエスさまはゆっくりと起き上がり、ごうごうと荒れ狂う嵐をお叱りになり「湖に「黙れ。静まれ。」とお命じになりました。すると、たちまち嵐はやみ、波が静まってすっかり静かになりました。

イエスさまが一緒に一緒におられるにもかかわらず、まるでおられないかのように怒れおののく弟子たちをご覧になったイエスさまは、「なぜ、怖がるのか。まだ信じないのか」といわれました。

嵐で怖がるお弟子さんたちの為、神の子の力をふるって争り助けて下さいました。そして、なかなか信じることが出来ない人間たちの為、十字架架にかかり死んで下さり、ご自身に蘇って、神の国があることわたしたちに教えて下さいました。どんな時も、神さまが共にいて下さいますことを、信じる者と成れますように、これから、教会学校でお話を聞いていきましょう。

(お話 西崎 千鶴子)

